

社会学部

I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2019年度大学評価結果総評】(参考)

社会学部は2018年度からカリキュラム改革を実施し、新たな理念の下で教育体制をより体系化、重層化した。また、教員組織も、改革の理念を実現するために、教育方法や教育課程に関する全体的、分野別の議論の場を確保し、全体として教育改革に取り組んでいることがうかがえる。必要な専任教員の確保もなされている。この点は、他の学部にとっても大いに参考となると思われる。

その中でも、1年次の段階で幅広く社会学、さらに社会科学全般についての知識、素養を身に付け、2年次に進級する段階でコース選択をさせるという学習過程の設計は合理的である。カリキュラム改革の意図が実現するかどうかは、基礎段階から専門段階への発展的接続ができるかどうかにかかっていると思われる。これから新カリキュラムの下で教育を重ねていく中で、改革の趣旨が徹底しているかどうかを検証しながら、新たな教育体系を実践することが必要と思われる。その中で、学生からのフィードバックを確保し、学ぶ意欲を引き出すための一層の工夫が求められる。中期目標の中ではそういった問題意識は明記されているので、その実現を期待したい。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

大学評価委員会の評価については、これまでの本学部の取り組みの方向性がおおむね評価されているものと判断し、現状の方向性を維持しつつ、引き続き本学部における教育研究の質の向上に向けて努力していく。

本学部では2016年度から2017年度にかけて教学改革・人事構想委員会を設置し、カリキュラム改革と教員人事の中期計画策定に取り組んだ。2020年度は新カリキュラムの実施3年目にあたる。各学科の教員全員が参加する「学科カリキュラム運営会議」を春・秋学期各1回開催した。春学期はカリキュラム運営の状況を評価し課題を教員間で共有することを主な目的とし、秋学期は翌年度のローテーション科目の担当を決めることを主な目的としたものであった。

学生に対しては、4月の履修登録締め切り前に複数日にわたって「教員による履修相談会」を開催し、学生の疑問・不安に答えることで、新カリキュラムへのスムーズな導入をはかった。また、2年生以降のコース選択を的確に行えるように、1年生秋学期のコース登録前に学科ごとのコースガイダンスを実施した。

多くの授業でリアクション・ペーパーを用いた学生の理解度チェックが質問への応答が行われており、授業運営に生かされている。また新入生アンケート、卒業生アンケート、学生モニター制度の利用によって、いろいろな学部生の層の授業や大学生活全般へのニーズをくみ取り、学部運営の改善に役立っている。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

社会学部では、2018年度から実施されている新カリキュラムの円滑な実施に当たって各学科の教員全員が参加する「学科カリキュラム会議」を春・秋学期各1回開催し、教育方法や教育課程に関する議論の場を確保していることは評価できる。新カリキュラムの下では新たな教育体制を実践することが必要であるが、多くの授業運営に生かされているリアクション・ペーパーや各種アンケート、学生モニター制度などが、新カリキュラムの中間評価においても学生からのフィードバックを反映させるための方策として一層活用されることが望まれる。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S  A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

2018年度から導入した新カリキュラムでは、社会科学に関する専門教育は「学科カリキュラム」によって体系的に行われる。「学科カリキュラム」は、各学科がそれぞれカバーする領域に関する専門知識を身につけることができるように組まれている。学科カリキュラムを構成するのは「入門科目」「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」「コース専門科目」の4つの科目群である。前三者は、その学科に所属する学生が共通して身につけるべき専門知識修得の3つのステップに対応している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>1 年次に履修する「入門科目」で学科がカバーする領域への導入を行った後に、「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」の履修によって、学科が対象とする領域に関する理論や方法論に関する理解をさらに深める。</p> <p>以上を基礎にして「コース専門科目」の履修を進めることで、関心のあるテーマに関する知識を深めるとともに、「学科共通基礎・展開科目」で学んだ知識に、より具体的な肉付けを行っていく。</p>		
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>		
<p><b>【根拠資料】</b> ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度社会学部履修要綱</li> <li>・2020年度社会学部カリキュラムツリー（履修要綱に掲載）</li> <li>・2020年度社会学部カリキュラムマップ（履修要綱に掲載）</li> </ul>		
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S	A B
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>2018年度から導入した新カリキュラムは、「総合科目」「学科専門科目」「外国語教育プログラム」という3つの科目群に体系的に構成されている。その上で4年間の一貫教育システムを採用し、大学生活を大きく三期に分けて位置付けている。第一期は、1年次で入門期にあたる。この時期は、基礎演習における教員との交流、視野形成科目などの総合科目、そして所属学科カリキュラムの入門科目などの1年次から履修できる学科専門科目の受講を通して、2年次以降に知識を深めたい分野やテーマを自由に模索する時期である。</p> <p>第二期は、2年次・3年次の2年間で、専門科目の学修と研究を進める中心的期間である。この時期には、学科共通基礎科目で専門的な基礎学力を身につけ、さらに、コース専門科目の履修により自らの関心を追究しながら、学科共通展開科目の履修によって知的技能と研究手法を修得する。</p> <p>第三期は、4年次で、大学生活の総仕上げをする時期である。卒業論文の作成等を通して社会学部で4年間学んだことの集大成を行う。</p>		
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>		
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度社会学部履修要綱</li> <li>・2020年度社会学部カリキュラムツリー（履修要綱に掲載）</li> <li>・2020年度社会学部カリキュラムマップ（履修要綱に掲載）</li> </ul>		
③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S	A B
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>総合科目」のなかの「視野形成科目」群は、幅広く深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を育てるという目的を達成するため、「人文科学系科目」(A群)や「国際・社会科学系科目」(C群)に加えて、「自然科学系科目」(B群)についても専任教員が担当する科目を配置し、専門教育と相互に補完しあえるような教養教育の充実を図っている。また、ワーク・ライフバランスを重視した人間形成という意味でのキャリア形成を促すことを目的とした「キャリア形成系科目」(D群)を設置している。</p>		
<p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>		
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>		
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S	A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育は2つに分かれる。1つめは、専門教育への導入と、スタディー・スキルや能動的な学びへの態度転換を目的とする「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」である。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は、教育すべき項目を春・秋学期に分けきめ細かい教育を行っている。2つめは、基本的な専門知識の修得を目的とする所属学科ごとの入門科目などの1年次から履修できる学科専門科目である。いずれも本学部の4年間一貫教育の中での入門期に位置づけられる。</p> <p>春学期に開講する「基礎演習Ⅰ」では、大学での学修に必要な文献の読み方、文献・資料の探索・検索方法、プレゼンテーションの技法等を中心に学ぶ。秋学期に開講する「基礎演習Ⅱ」では、みずからの研究のためのテーマや問題の立て</p>		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

方、論文の書き方等を中心に学ぶ。所属学科ごとの入門科目では、2年次および3年次の知的技能・研究手法修得期にむけた視野の広がりや基礎知識の修得を目的とした学修を行う。

**【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・2019年度社会学部履修要綱

⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。 S  A B

※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

語学では「学びたい人が自由に学ぶことができる」L字型のカリキュラムを設定している。すなわち、必修外国語科目（Basic English1・2、諸外国語初級A・B、日本語1・2・3）で「基本的なところをしっかりと」学び、意欲に応じて外国語教育プログラム科目を履修することで、語学力を高めることができる仕組みになっている。

また、社会学部には、提携機関に留学して修得した単位が定められた上限内で卒業所要単位に認定されるスタディ・アブロードプログラム（SAプログラム）制度や、長期休暇を活用した単位認定海外短期留学制度も用意されている。

また、対象領域ごとにコースを編成した社会政策科学科と社会学科には、国際性の涵養に重点をおいた「グローバル市民社会」コースと「国際・社会」コースを設置している。これらのコースに設置された科目は全学科の学生が履修可能である

**【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・2020年度社会学部履修要綱

⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。 S  A B

※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

キャリア教育は、「職業社会論」、実務経験のある教員による「特講（インターンシップ）」、キャリアセンターと合同でおこなう「キャリアデザイン論」、学科横断的な専任教員の参加による「社会を変えるための実践論」が開講されている。これらの試みを体系的に位置づけるために、「総合科目」の「視野形成科目」の中に「キャリア形成科目」（D群）が設置されている。就職活動への意識付けにとどまらず、社会での働き方や生き方を考えるという視点も本学部独自の特徴となっている。

**【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・2020年度社会学部履修要綱

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。 S  A B

**【履修指導の体制および方法】** ※箇条書きで記入。

- ・教務委員会を中心とした履修登録期間（4月）の全学年対象「教員による履修相談会」（複数日）
- ・成績不振学生を対象とする教員による個別面談（6月実施、2015年度より）
- ・各コースの代表者によるコース選択のためのガイダンス（11月末～12月初旬）
- ・コース選択時期（12月上旬）の1年生対象「教員によるコース選択相談会」（複数日）
- ・基礎演習及び専門演習担当教員による学生への応談（随時）

**【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

・2020年度社会学部履修要綱

②学生の学習指導を適切に行っていますか。 S  A B

※取り組み概要を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

本学部では1年次に基礎演習、2年次以降は専門演習が設置されており、各演習の担当教員は、基礎演習では大学への定着を含めた学習指導、専門演習では3年間の継続的な指導により可能となるきめ細やかな学習に関わる助言と支援を精力的に実施している。大学院進学など、アカデミックなニーズの高い学生に対しては、演習だけでなく、各学科で開設される実習科目や特殊講義でも教員が相談に応じている。そして、全教員がオフィスアワーを設置し、授業の受講者か否かに関わらず、学生のニーズに応じた学習指導を行っている。

2015年度より、成績不振学生に対して教員による個別面談を実施し、学生が抱える問題の把握と解決に努めている

**【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2020年度シラバス
- ・2020年度社会学部履修要綱

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。 S  A B

※取り組み概要を記入。

シラバスの「授業時間外の学習」項目の記載を徹底する一方で、具体的な実践については各教員の創意工夫と試行を尊重している。授業時に配布・回収する学生からの「リアクション・ペーパー」に対する次回授業内での回答を通じた到達度の確認や、授業中および授業時間外でなされる双方向的なやりとり（質問・コメント）の重視、学生に与えた課題に対する解答を元にした授業展開、授業支援システムの予習・復習のための積極的活用など、その実践は多岐に展開されている。

**【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2019年度社会学部履修要綱

④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。 S  A B

**【具体的な科目名および授業形態・内容等】** ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

- ・「社会を変えるための実践論」：授業後半にバズセッションを取り入れ、複数教員による集団指導と、学生スタッフの授業運営への参加により、アクティブラーニングの実効性を担保している。
- ・「社会学への招待」：教員による集団指導。
- ・「社会調査実習」：社会調査の企画・設計から、実査、分析、報告書執筆・刊行にいたる全過程の体験・修得。
- ・「メディア社会学実践科目」：各コースの「理論」「技法」科目を基礎に学生が行うメディア表現・分析・設計。
- ・実務家などを講義に招く「ゲスト講師」制度の設置

**【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2020年度社会学部履修要綱

⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。 S  A B

※どのような配慮が行われているかを記入。

- ・語学については、効果的な語学教育に適した均質な学習環境を提供できるよう配慮している。
- ・基礎演習については、初年次教育が円滑に進むようクラス編成に配慮している。
- ・専門演習については、原則として全学生の履修を保証するために、受け入れ学生数の目安を教授会で申し合わせている。
- ・実習科目（政策データ分析実習、政策フィールドワーク実習、社会調査実習、メディア社会学実践科目、クリエイティブ・ライティング、ニュース・ライティング）については、科目ごとに内容に即して指導可能な学生数を設定している。
- ・情報教育科目については、実習室の規模に即して、学生数を設定している。

**【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・特になし

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2020年度社会学部履修要綱
- ・専門演習について（教授会配布資料）

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・執行部と教務委員会による、GPCA データ・評価比率データを活用した成績分布の検証（この結果、大半の教員がシラバスの「成績評価の方法と基準」項目に厳格かつ適切な基準を明記し、適切に成績評価と単位認定を行っていることが確認されている）。</li> </ul> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>厳格な成績評価を実施するために、本学部では講義科目の「S」評価が「上位20%程度」か、D評価が履修者の50%以上になっていないかを執行部・教務委員会で確認している。</p> <p>このほか、各科目、ならびに「3つの科目群」及び「3つの教育段階」ごとにGPCAデータを集計し、これを教員にフィードバックするとともに、集計結果に基づき成績評価の適切性に関する検証を執行部と教務委員会で実施している。</p> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度社会学部履修要綱 (p. 100、S評価基準について)</li> </ul>	
③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職・進学状況については、キャリアセンターからの情報を含め、執行部会議で検討している。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンアセンター卒業生進路先データ、入学センター提供学部別主な就職先・学部別業種割合データ</li> </ul>	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データの把握主体：執行部</li> <li>・把握方法：成績分布については、GPAを指標としてデータを構築・分析。進級・卒業状況については、学部・学科・学年単位で集計。</li> <li>・データの種類：学科別・学年別・学部全体の集計データなど。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度教授会資料</li> </ul>	
②「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>演習の履修率、進級・卒業率、卒業論文提出率など教育成果に関する基本的データについて、執行部・教務委員会及び教授会で情報共有し、検討している。例えば、学生の学修成果の最終的な指標ともいえるべき「演習3（卒業論文）」の履修率は毎年度半数を超えており、専門演習の履修促進という本学部の取り組みが一定の成果を上げていることが確認されている。</p> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度教授会資料</li> </ul>	
③「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。</p> <p>「能力形成期」（2～3年次）においては、学部研究発表会でゼミやグループでの研究発表を行っている。また「総仕上げ期」（4年次）については卒業論文の中から優秀卒論を選考し、「優秀卒業論文集」を刊行している。</p> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度FD委員会報告書</li> </ul>	
④学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部研究発表会」での専門演習の研究成果の可視化・発信（毎年11月）。</li> <li>・基礎演習・専門演習におけるゼミ論文の執筆奨励と「ゼミ論文集」「報告書」の公開。</li> <li>・調査実習科目における「報告書」の刊行・配布。</li> <li>・メディア実習科目における作品の公開。</li> <li>・優秀な卒業論文を選定した「優秀卒業論文集」の刊行。応募数9本、掲載3本であった。</li> <li>・基礎演習・専門演習の「ゼミ論文集」「報告書」刊行に対する助成金制度の応募件数が8件。</li> <li>・そのほか、授業支援システムを利用したレポート・ゼミ論文等の公開やインターネットを利用した成果物の発信など</li> </ul> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>学部で実施している演習研究成果報告書の刊行助成への応募・採択件数が8件と伸びた（前年度7件）。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度優秀卒業論文集</li> <li>・2019年度社会調査実習報告書（開講クラス別に刊行）</li> <li>・2019年度政策研究実習報告書（開講クラス別に刊行）</li> </ul>	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
① 学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会（各学期末）</li> <li>・英語科目：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会（春学期半ば）</li> <li>・諸外国語・情報実習科目：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会（年度末）</li> <li>・調査実習科目：全担当者による来年度科目の打ち合わせ（秋学期開始時）、調査実習実施に付随する問題の共有と解決（随時）、報告書の回覧（年度末）</li> <li>・学科カリキュラム運営会議での情報交換（春・秋学期各1回開催）</li> </ul> <p>こうした機会を通して、教育成果を科目担当教員間で共有し検証するよう努めている。</p> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし</p>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※利用方法を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の結果のフィードバックにもとづき、各教員による教育内容の改善等で活用している。</li> <li>・シラバスに、「学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき」という項目を設けている。</li> </ul> <p><b>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度社会学部シラバス</li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画がある場合には、あわせて記入してください。特記すべき事項が無い場合には「特になし」と記入してください。

内容	点検・評価項目
・基礎演習や英語、諸外国語といった兼任講師率の高い科目群においても、1年または半期に一度専任・兼任講師の交えた懇談会を行っており、その時々の授業における問題点や学生の様子、改善策などを検討し、共有している。また各学科の教員全員が参加する「学科カリキュラム運営会議」を春・秋学期各1回開催し、カリキュラム運営の状況を評価し課題を教員間で共有している。	

(3) 問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。特記すべき事項が無い場合には「特になし」と記入してください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

<p>社会学部では、2018年度から導入された新カリキュラムの下で、各学科がそれぞれカバーする領域に関する専門知識を身につけることができるよう「学科カリキュラム」によって4年間の一貫教育が体系的に行われていることは評価できる。初年度教育は、4年間の一貫教育の中の入門期として位置づけられており、学科共通の入門科目と専門教育への導入としての基礎演習により適切に行われている。SAプログラム制度や長期休暇を利用した単位認定海外短期留学制度が用意されるなど、学生の国際性の涵養にも意が用いられている。キャリア教育として、「職業社会論」、実務経験者による「特講」、キャリアセンターと合同で行う「キャリアデザイン論」や「社会を変えるための実践論」が開講され、これらを体系的に実施するため「総合科目」の「視野形成科目」の中に「キャリア形成科目」という科目群が設置されているのは評価できる。また、学習活性化のための措置として、履修登録期間の全学年対象の「教員による履修相談会」、成績不良学生を対象とする教員による個別面談やコース選択時期に1年生対象に行われる「教員によるコース選択相談会」など実施されていることは評価できる。</p> <p>学習成果の可視化については、毎年11月に「学部研究発表会」での専門演習の研究成果の可視化・発表を行っているほか、「優秀卒業論文集」の刊行や演習研究成果報告書の助成金制度等を実施しており、刊行助成への応募・採択件数も伸びており適切である。</p>
---

2 教員・教員組織

【2020年5月時点の点検・評価】

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。		
①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S	A B
<p>【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部FD委員会が、常設の基幹的な委員会として原則隔週で開催され、基礎演習の向上（教育内容の標準化等の検討）、専門演習の向上（学部研究発表会の運営等）、実験的授業などについて検討しているとともに、学部独自の大規模授業アシスタント・学習サポーター制度を運用することで各教員のFD活動を支援している。この委員会が、執行部、教務委員会、質保証委員会とともに学部PDCAサイクルの一翼を担っている。</li> <li>・個々の教員については、在外研究、国内研究・研修制度、学会出席への補助などによってその研究活動を援助することで、教員の教育研究にかかわる資質の向上を図っている。</li> <li>・原則、全科目を教員相互の授業参観可としているほか、複数の教員が連携する授業では互いに授業方法について意見交換するなどして、授業の質的向上に努めている。</li> <li>・基礎演習、外国語関連科目（英語及び諸外国語）、情報教育科目、調査実習科目、体育科目では、必要に応じて兼任講師を含めた担当教員の懇談会を開き、授業改善のための情報交換を行っている。</li> </ul> <p>【2019年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。</p>		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・FD委員会

【開催日】4月16日、5月14日、5月28日、6月11日、6月25日、7月9日、7月23日、9月24日、10月15日、10月29日、11月5日、11月19日、12月3日、12月17日、1月28日

【場所】社会学部棟8階会議室B

【テーマ・内容】Ⅰ. 授業支援（大規模授業アシスタント・学習サポーター、ゲスト講師、関連規程の改正）、Ⅱ. 学部研究発表会（運営方針、スケジュール・発表内容、評価・課題）、Ⅲ. ゼミ選考プロセス（専門演習紹介パンフレット、ゼミ紹介Weeks）、Ⅳ. その他（基礎演習の改革、FD推進センターとの連絡調整、FD活動の情報共有）、Ⅴ. 今後の課題（新カリキュラム合わせたFD活動の模索、「ラーニング・サポーター」の活用、『FD委員会報告書』のデジタルアーカイブ化）

【参加人数】FD委員6名

・基礎演習担当者懇談会

【開催日】(1)7月16日、(2)1月14日

【場所】多摩総合棟5階多目的ルーム

【テーマ・内容】(1)春学期・秋学期の学生の様子について(2)2018年度開始の新カリキュラムについて

【参加人数】(1)25名、(2)24名

・諸外国語関連科目担当者会議

【開催日】4月1日（2019年度に入ってから開催）

【場所】多摩総合棟5階第一会議室

【テーマ・内容】社会学部語学カリキュラムについて、2018年度授業のふり返り、2019年度クラス規模について

【参加人数】23名（教授会主任2名＋専任4名＋兼任17名）

・情報教育関連コース・プログラム会議

【開催日】10月1日

【場所】多摩総合棟総合棟5階役員室付附属会議室

【テーマ・内容】2018年度導入新カリキュラム進捗状況、情報教育科目・情報系科目群の将来構想

【参加人数】6名（専任6名）

【開催日】3月17日

【場所】総合棟5階多目的ルーム

【テーマ・内容】情報教育関連懇談会に向けての打ち合わせ、新情報システムについて

【参加人数】4名（専任4名）

・情報教育関連懇談会

【開催日】3月31日実施予定（新型コロナウイルスにより中止、メールによる連絡）

【場所】メールによる情報共有

【テーマ・内容】2018年度導入新カリキュラムの進捗状況と、新情報システムの説明

【参加人数】13名（専任4名）

・調査実習運営委員会

【開催日】4月3日、10月15日、1月18日、3月17日

【場所】社会調査室

【テーマ・内容】(4月3日)前年度実習のふり返り、実習担当者の確認、社会調査室の整備、受講生数の把握と今後の相談

(10月15日)調査士科目受講生数の情報共有、学科ガイダンス担当者の確認、社会調査室の整備、来年度実習担当者の確認、調査士科目に関するゾーン表の確認等

(1月18日)社会調査士資格申請希望者への指導に関する確認

(3月17日)社会調査士資格申請用紙の回収、実習運営委員会の日程調整、来年度社会調査実習ガイダンス・社会調査士ガイダンスに関する確認

【参加人数】専任教員10名

・体育科目担当者懇談会

【開催日】(1)7月19日、(2)1月10日

【場所】多摩総合体育館2階講師室

【テーマ・内容】(1)春学期授業のふり返り、秋学期にむけての課題整理 (2)秋学期授業のふり返り、次年度にむけての課題整理

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【参加人数】(1)16名(専任1名+兼任15名)、(2)13名(専任1名+兼任12名)	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・2019年度FD委員会報告書	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。 社会学部では研究活動の活性化と資質向上のために、年4回学部紀要『社会志林』を刊行している。また、大学院社会学研究科と共同で教員や大学院生が研究成果を報告し意見交換を行う「社学コロキウム」を年3回開催している。社会貢献活動の面では、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業への協力を通じて、社会貢献・社会連携を図っている。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 ・特になし	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・学部紀要『社会志林』 ・「社学コロキウム」プログラム	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入してください。なお、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画がある場合には、あわせて記入してください。特記すべき事項が無い場合には「特になし」と記入してください。

内容	点検・評価項目
・基礎演習、外国語関連科目、情報教育科目、調査実習科目、体育科目では、必要に応じて兼任講師を含めた担当教員の懇談会を年数回開き、授業改善のための情報交換を行っている。	

(3) 問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画(既の実施している場合にはその進捗状況も含めて)をあわせて記入してください。特記すべき事項が無い場合には「特になし」と記入してください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

<p>社会学部では、学部FD委員会が常設委員会として原則隔週で開催されており、教育内容の向上に努めるとともに、各教員のFD活動を支援するほか、原則、全科目を教員相互の授業参観を可とするなどして教員の資質向上を図っているのは適切である。</p> <p>また、基礎演習や英語、諸外国語等の兼任講師率の高い科目群においては、1年または半期に一度専任・兼任講師の交えた懇談会を行っており、その時々の授業における問題点や学生の様子、改善策などを検討し、共有している。また各学科の教員全員が参加する「学科カリキュラム運営会議」を春・秋学期各1回開催し、カリキュラム運営の状況を評価し課題を教員間で共有していることは評価できる。</p> <p>研究活動の活性化と資質向上のため、年4回学部紀要である『社会志林』を刊行するほか、大学院社会学研究科と共同して「社学コロキウム」を年3回開催していることも評価できる。</p>
--

III 2019年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
----	------	----------------------------

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

1	中期目標	①2018年度から導入した新カリキュラムの円滑な運営を図る（2018年度～2021年度） ②2018年度生の専門教育が本格化する2020年度以降、新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。	
	年度目標	①教授会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの運営状況について、教員間で情報共有を図る。 ②新カリキュラム下での学習の円滑化を図る。	
	達成指標	①教授会・「学科カリキュラム運営会議」などを開催することで、カリキュラムの運営状況に関する情報共有と改善点の洗い出しが行われている。 ②学生に対し、適切なガイダンスが実施されている。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	①「学科カリキュラム運営会議」を年2回開催し、次年度時間割調整のための情報共有などを行うことで円滑なカリキュラム運営ができています。 ②秋学期にコース選択のための教員ガイダンスを複数回実施し、1年生のコース選択に資することができています。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見		「学科カリキュラム運営会議」の定期開催などによる教員間の情報共有を通して、新カリキュラムの円滑な運営が達成されていると評価できる。コース選択のための教員ガイダンスの実施により、学生の学習に対する適正なガイダンスが図られていると評価できる。	
改善のための提言	これまでの新カリキュラムの運営円滑化のための努力を踏まえつつ、次年度以降、その教育効果の分析と評価に向けた検討が進められることを期待する。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	①学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ②学習効果向上のため、授業時間外で行う学習について適切な指導を行う。	
	年度目標	①教員による履修相談会、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスを着実に実施していく。 ②学習効果を向上させる授業時間外学習の指導のために、シラバスで必要な授業時間外学習を明示する。また、教務委員会・FD委員会を中心として、授業時間外学習指導の方法について検討する。	
	達成指標	①教員による履修相談会、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスによって、学生への学習指導が的確に行われている。 ②シラバスで授業時間外学習の内容が明示されている。授業時間外学習の指導方法について検討が行われている。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	①教員による履修相談会を4月、成績不振学生を対象とする「個別学修相談会」を6月、コース選択のためのガイダンスを11月に実施し、学生への学習指導を的確に行うことができています。 ②2月に執行部、教務委員によりシラバスをチェックし、授業時間外学習の内容が明示されていることを確認している。
		改善策	—
質保証委員会による点検・評価			
所見		教員による履修相談会、成績不振学生に対する「個別学習相談会」、コース選択のためのガイダンスを実施することにより、学生への学習指導が着実になされていると評価できる。シラバスに授業時間外学習の内容の明示がなされていると評価できる。	
改善のため	学習効果の向上のために、授業時間外学習の指導方法についてさらに検討が進められること		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		の提言	を期待する。	
No	評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
3	中期目標		①基礎演習の教育内容の向上、専門演習選考方法の改善に取り組み、少人数教育の一層の充実化を進める。 ②学部教育の到達点となる演習3について履修率を高め、卒業論文の提出率を向上させる。また、優秀卒業論文集の継続的刊行と各演習での活用を行う。 ③ゼミ論文集の作成、学部研究発表会の実施等により、専門演習の成果の発信と教育内容の充実化を図る。	
	年度目標		①基礎演習の教育内容の向上のために、基礎演習担当者による懇談会の成果を活用する。 ②演習3の履修率を高め、卒業論文の提出率を向上させるために、新カリキュラムの中での演習3の位置付けを検討する。	
	達成指標		①基礎演習担当者による懇談会の成果を活用して、必要に応じて、基礎演習の教育内容の向上策を提案できている。 ②新カリキュラムの中での演習3の位置付けを検討し、優秀卒業論文集の活用を促すなど、演習3の履修率を高め卒業論文の提出率を向上させるための取り組みが進んでいる。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	B	
		理由	①基礎演習担当者による懇談会を年2回学期末に開催し、基礎演習の教育内容の向上策を提案できている。 ②学生モニターへのヒアリングで演習3の位置付けを検討することはできたが、演習3の履修率を向上させる方策を打ち出すまでには至っていない。	
		改善策	学生モニターへのヒアリング内容を精査するなどして、演習3については、新カリ生が4年生となる2021年度に向け、演習2からのスムーズな移行が図れるような取り組みを検討していく。	
質保証委員会による点検・評価				
所見	基礎演習の教育内容の向上については、基礎演習担当者による懇談会の成果の活用など具体的に組み込まれていて、目標をほぼ達成している。一方、演習3の履修率を高め、卒業論文の提出率を向上させることについては、2019年度の履修率、提出率は前年よりも低下し、また具体的な方策の検討が進んでいないことから、目標の達成は不十分である。			
改善のための提言	卒論の位置づけの周知徹底、演習2から演習3への連続性の確保などの方法について検討する場を設置することが有効ではないか。			
No	評価基準		学生の受け入れ	
4	中期目標		①「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を満たすように入学生員の的確な査定を行う。 ②入試経路の多様化のために、必要に応じて新しい入試制度の導入を検討する。	
	年度目標		①入学生員が「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を満たすように入学生員の的確な査定を行う。 ②入学センターから最新の入試動向などの情報収集を行う。	
	達成指標		①「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」に沿った入学生員比率を堅持できている。 ②新たな入試制度を検討するために入試動向についての最新の情報を収集できている。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
理由		①「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」に沿った入学生員比率を堅持できている。 ②新たな入試制度を検討するために、入学センターとの懇談会を活用して、入試動向の情報を収集できている。		
改善策	-			

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		質保証委員会による点検・評価
	所見	・入学試験の際の合格者査定方法の改善などにより、教育水準の維持向上や大学経営にとって重要な課題である学生定員の適正化が進んでいることは高く評価する。
	改善のための提言	・他大学の動向や志願者の行動は短期間にかかなり大きく変化することもありうるので、引き続き情勢の把握・分析に努められたい。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	①2017年度人事構想委員会答申に沿って適切な専任教員の採用を順次実行していく。
	年度目標	①専任教員の欠員状況などを確認し、必要な専任教員の採用を行う。
	達成指標	①専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。
		教授会執行部による点検・評価
	自己評価	S
	理由	①専任教員の欠員を補う形で、来年度に向けて2名の専任教員を確保することができた。さらには、日本語担当の任期付専任教員も採用することができた。
	改善策	—
年度末報告		質保証委員会による点検・評価
	所見	年度目標である「欠員状況を確認し、必要な専任教員の採用を行う」に対し、必要な専任教員及び任期付き専任教員の採用を実施できており、順調に目標を達成している。
	改善のための提言	—
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	①オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、成績不振学生を通じた個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。
	年度目標	①「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修学支援を行う。 ②オフィスアワーの実施を徹底する。
	達成指標	①「個別学修相談会」を通じ、成績不振学生の修学支援の成果ができている。 ②オフィスアワーが設定されている。
		教授会執行部による点検・評価
	自己評価	A
	理由	①「個別学修相談会」を通じ、成績不振学生の修学支援をすることができた。 ②オフィスアワーを設定し学内掲示することで、学生の活用を促すことができた。
	改善策	—
年度末報告		質保証委員会による点検・評価
	所見	成績不振学生に対する「学修相談会」の実施とともに、全専任教員によるオフィスアワーを通じた受講生への履修支援や主に初年次学生を対象とする科目登録時の「履修登録相談会」を実施するなど、学生支援について目標を達成している
	改善のための提言	—
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	①多摩キャンパスで取り組んでいる多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。 ②大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。
	年度目標	①多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業を着実に実施する。 ②・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加を継続する。
	達成指標	①多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業を実施している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		②大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などに参加している。
年度末 報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	①多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業に協力している。 ②大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などの運営に協力している。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	多摩シンポジウムの開催、多摩地域交流センター事業やグローバル教育センター事業への協力を進めるとともに、大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会活動に協力するなど、積極的に社会貢献等の取組みを実施しており、目標を達成している。
改善のための提言	—	

【重点目標】

社会学部にとっては、2018年度から導入した新カリキュラムの円滑な運営を図ることが最も重要である。今年度は新カリ2年目にあたり、教授会および年2回開催する「カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの適切な運営が図られているか専任教員間で引き続き情報共有を図る。昨年度実施した1年生コース登録前のコースガイダンスが適切であったかなど成果を確認しながら、学生が新カリキュラムにスムーズに適應できるように修学支援を行う。

【年度目標達成状況総括】

上記で重点課題とした新カリキュラムの円滑な運営については、「カリキュラム運営会議」での専任教員間の情報共有を図るとともに、1年生へのコース登録前のコースガイダンス、個別学修相談会などを通じ、学生が新カリキュラムにスムーズに適應できる修学支援を行うことができた。ただし、演習3については履修率向上策を打ち出すまでには至っておらず、引き続き検討が必要である。

【2019年度目標の達成状況に関する大学評価】

社会学部での2019年度目標の達成状況は、教育課程に関して2018年度から導入された新カリキュラムの円滑な運営を図ることについて、学科カリキュラム会議を年2回開催し、教員間で次年度時間割調整のための情報共有を行うことにより目標が達成されたといつてよい。一方で学部教育の到達点と位置付ける「演習3」の履修率を向上させ、卒業論文の提出率の向上を図ることが目標とされたが、同科目の履修率は前年よりも低下してしまった。その理由を精査した上で、学生モニターへのヒアリングによる同科目の位置づけの検討結果などを踏まえ、履修率向上のための方策を打ち出す努力を継続してゆくことが望まれる。

IV 2020年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	①2018年度から導入した新カリキュラムの円滑な運営を図る（2018年度～2021年度） ②2018年度生の専門教育が本格化する2020年度以降、新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。
	年度目標	①新カリキュラムの中での語学教育の位置づけについて将来構想委員会で話し合う。 ②オンライン授業で新カリ下の学生の学修が確保できる。
	達成指標	①将来構想委員会において新カリキュラムの中でのよりよい語学教育の方向付けがなされる。 ②オンライン授業で新カリキュラムが円滑に運営されている。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	①学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ②学習効果向上のため、授業時間外で行う学習について適切な指導を行う。
	年度目標	①教員による履修相談会、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスを遠隔の環境で実施していく。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		②オンライン授業で、さまざまな科目において授業時間外に行う学習について適切な指導を行う。
	達成指標	①教員による履修相談会、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスによって、学生への学習指導が遠隔の環境の中で行うことができる。 ②オンライン授業で、さまざまな科目において授業時間外に行う学習について適切な指導が行われる。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	①基礎演習の教育内容の向上、専門演習選考方法の改善に取り組み、少人数教育の一層の充実化を進める。 ②学部教育の到達点となる演習3について履修率を高め、卒業論文の提出率を向上させる。また、優秀卒業論文集の継続的刊行と各演習での活用を行う。 ③ゼミ論文集の作成、学部研究発表会の実施等により、専門演習の成果の発信と教育内容の充実化を図る。
	年度目標	①基礎演習の教育内容の向上のために、基礎演習担当者による懇談会の成果を活用する。 ②オンライン授業、図書館の利用制限の中で、卒業論文の指導を効果的に行う。
	達成指標	①基礎演習担当者による懇談会をweb環境で行い意見交換が行われる。 ②オンライン授業、図書館の利用制限の中で、卒業論文を提出させることができる。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	①「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を満たすように入学生員の的確な査定を行う。 ②入試経路の多様化のために、必要に応じて新しい入試制度の導入を検討する。
	年度目標	①入学生員が「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を満たすように入学生員の的確な査定を行う。 ②コロナウイルス感染拡大の中で、適切に入試が行われ、学生の受け入れができる。
	達成指標	①「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」に沿った入学生員比率を堅持できている。 ②コロナウイルスによる流動的な状況の中で、情勢を見極めつつ学生の受け入れができる。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	①2017年度人事構想委員会答申に沿って適切な専任教員の採用を順次実行していく。
	年度目標	①教授会運営も制約される中で、専任教員の欠員状況などを確認し、必要な専任教員の採用を行う。
	達成指標	①専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	①オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、成績不振学生を通じた個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。
	年度目標	教職員や学生の入校が制限され、対面授業ができない中で、学習支援システムや電子会議室等さまざまなツールを用いて、学生の学習支援が的確に行える。
	達成指標	教職員や学生の入校が制限され、対面授業ができない中で、さまざまな学習支援システムや電子会議室を用いて、学生の学習支援を実施する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	①多摩キャンパスで取り組んでいる多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。 ②大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。
	年度目標	コロナウイルス感染拡大の中で、学生の就学環境も悪化すると考えられる。このような社会的制約に対して、大学における学修の重要性に鑑み、学生の就学環境を支えるべく、さまざまなチャンネルで行動を行う。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	達成指標	学生の就学、学修が良好に行えるような方策について、さまざまなチャンネルを通じて働きかける。
<p><b>【重点目標】</b>                  コロナウイルス感染拡大の中で、オンライン授業となり、学生の学習環境に様々な制約が厳しい中、学生に有効な学びの場を提供する。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b>                  オンライン環境で効果的な授業を行えるよう、各々の教員の実践について密な情報交換を行える。</p>		

**【2020 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】**

2020 年度目標の設定については、2018 年度から導入された新カリキュラムの円滑な運営を図る中で中間評価に着手することとされているが、学生からのフィードバックを得ることも考慮に入れる必要がある。オンライン授業での新カリキュラムの円滑な実施についても教員間の実践についての情報交換により工夫されることを期待したい。オンライン授業で図書館の利用制限下での卒業論文の指導の効果的実施については、資料として書籍のみならず、ウェブ上で入手可能な学術データベースの活用なども検討すべきであろう。

**【大学評価総評】**

社会学部は 2018 年度から導入された新カリキュラムの円滑な運営を図る中で、将来構想委員会においてよりよい語学教育のための方向付けをするとともに、学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図るために、学生からのフィードバックを得ることも考慮に入れる必要がある。

また、コロナ状況下で、オンライン授業で学生に有効な学びの場を提供することは必須であり、教員間の実践についての情報交換による創意工夫が望まれるほか、図書館の利用制限下での卒業論文の指導については、資料として書籍のみならず、ウェブ上で入手可能な学術データベースの活用についての学生への情報提供なども検討すべきであろう。

コロナウイルス感染拡大による制約が厳しい中、学生有効な学びの場を提供するという重点目標の達成を期待したい。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。